

第6章 計画コンセプトと基本方針

1 船来山古墳群の本質的価値

【本質的価値の考え方】



(1) 「古墳群」としての価値

前期から後期に至るまでの古墳群形成の変遷をたどることができ、それぞれ特徴的な古墳の形態や豪華な副葬品などから、当時の中央政権や朝鮮半島、中国大陸との交流など、当時の本巢地域の社会情勢を知ることができる **歴史を知る上での貴重な史料**

同時期でも異なる形で造られた墳丘やバラエティに富んだ石室の形態がみられ、古墳の様式等の日本の古墳研究の指標となる **古墳研究の学術上の史料**

船来山にまとまって残存する古墳と大量の出土品は、本巢の地域に古墳時代から文化が存在していたことを伝える物証として稀有な存在である **古墳時代の文化的伝統あるいは文化の存在を伝承する物証**

【船来山古墳群の特徴】

- 濃尾平野が一望できる独立丘陵に 290 基もの古墳が群集した大古墳群（東海地方で最大級）
- 同一丘陵上に各時代の古墳が連綿と築造
 - ・前期古墳と後期古墳が同じ墓域に造営されるのは珍しく全国的にも稀有なエリアといえる
- 複数の首長が船来山を共同墓域として利用し、異なる墳形で築造された前期「首長墓」
 - ・中央政権との関わりを裏付ける特徴を持つ前方後円墳が視覚的なモニュメントとしての役割をもって築造
- 赤彩古墳とその後、爆発的に古墳築造された後期「群集墳」
 - ・6世紀からの古墳が全体の約70%を占める
 - ・広域に及び集落の有力家族層が船来山を共同墓域としていた可能性が高い
 - ・石室の形態は極めてバラエティに富む
- 豪華で多彩、豊富な副葬品
 - ・県内各市町村指定文化財の中でも圧倒的な数を誇る出土品（市指定有形文化財の船来山古墳群出土品 8,739 点）
 - ・朝鮮半島や中国大陸との交流が示唆される数々の副葬品が存在する
 - ・後期の赤彩古墳に代表される6世紀代の副葬品の豪華さは、他の古墳群と比較しても群を抜いており、葬られた古代豪族の勢力を示す

(2) その他の視点に基づく価値評価

古墳群形成以降から現代までの「船来山」やその周辺の土地利用や機能の変遷を踏まえると、以下の視点で、それぞれの価値を評価することができると考えられる。

船来山

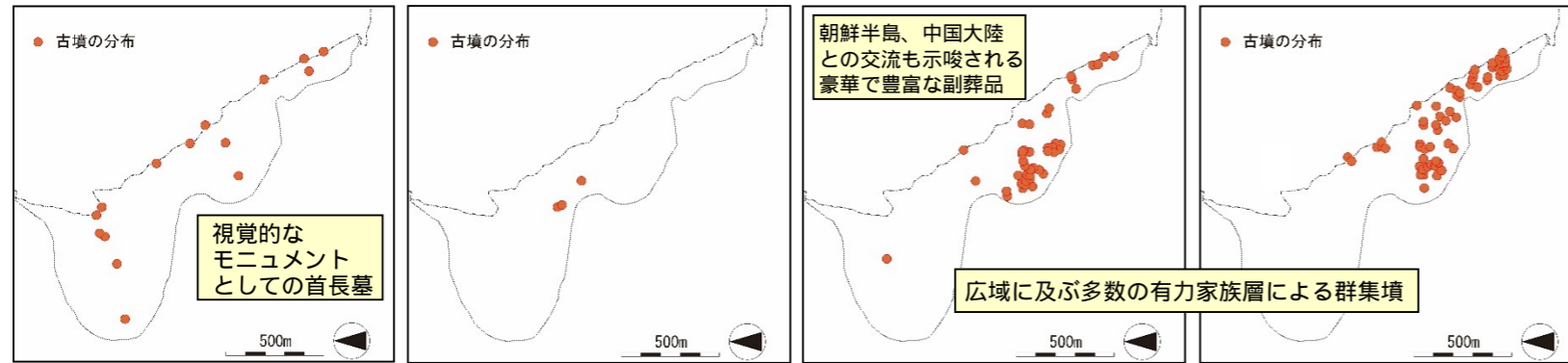
- 「舟材調達地」としての価値
- 「信仰の山」としての価値
- 「名所」としての価値
- 美濃守護土岐氏の「山城(前線基地)」としての価値
- 名古屋城築城石垣普請の「石切り場」としての価値
- 「里山」「産業の場」としての価値
- 「緑地」「景観」としての価値

周辺地域

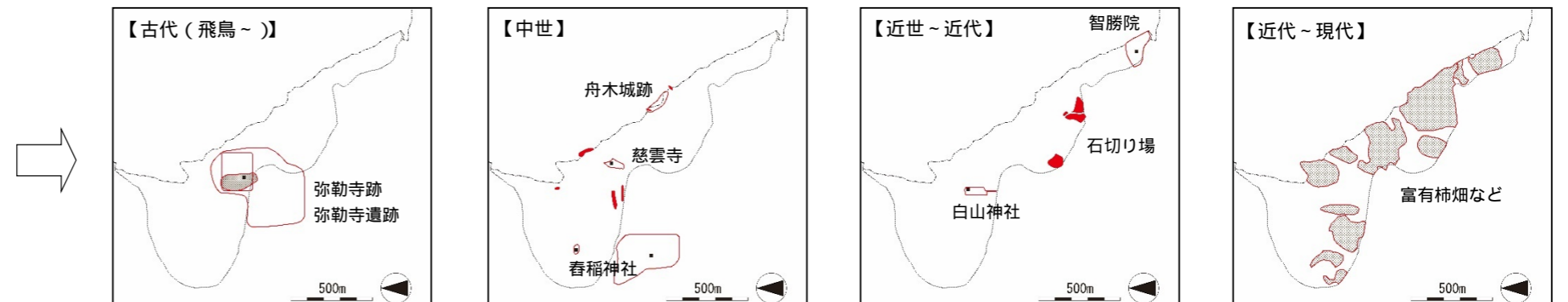
- 美濃・本巢国造の本拠地域としての価値
- 「名所」としての価値
- 「戦闘の場」「東西日本の文化交流の場」としての価値
- 「産業」の場としての価値

表 6-1 船来山古墳群の時代区分と各時代の価値評価

| 時代区分 | 古代 | | | | 中世 | | | 近世 | 近代 | | 現代 | | | | | |
|---------|---------------|-----------------------------|-----|-----|------------|-------------------|------------------------|-----|------------------|----------------|------------------------------------|--------------|-------------|----------------------------|--------------|----------------|
| | 古墳 | | | 飛鳥 | 奈良 | 平安 | 鎌 | 室町 | 戦国 | 安土桃山 | 江戸 | 明治 | 大正 | 昭和 | 平成 | |
| | 前期 | (中期) | 後期 | | | | | | | | | | | | | |
| 評価軸 | 古墳 | 古墳群としての価値 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | | | | | | | | | | | |
| | 舟材 | 舟材調達地としての価値 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 「禁処」(天皇の独占空間)、船木部 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 信仰 | 信仰の山としての価値 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 弥勒廃寺 | | | | 春稻神社 | | | 慈雲寺 | | 白山神社・智勝院 | | (北野神社・八幡神社) | | | |
| | 名所 | 名所としての価値 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 催馬楽「席田」、歌枕「舟木の山」「いつぬき川」「席田」 | | | | | | | | 緑樹亭五峯嶋隆「桑山十二景」 | | 蓑虫山人「船来山図絵」 | | | | |
| 砦・山城 | | | | | | | | | 美濃守護土岐氏の山城としての価値 | | | | | | | |
| 石切場 | | | | | | | | | | | 名古屋城築城石切り場としての価値 | | | | | |
| 里山・産業 | | | | | | | | | | | 里山・産業の場としての価値 | | | | | |
| 緑地・景観 | 緑地・景観としての価値 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 歴史の変遷 | 古代寺院 弥勒寺創建 | | | | 715年 席田郡建郡 | 877年 大嘗祭の悠紀に席田郡指定 | 条里制・七官道の整備 荘園・国衙領による支配 | | 1221年 承久の乱 | 1530年 根尾川大洪水 | 1547年 土岐次郎が席田に砦を築く | 1612年 名古屋城築城 | 1891年 濃尾地震 | 1912年 郡府で富有柿園開始 | 1937年 系貫川 鹿川 | 1940年 船来山で柿園開拓 |
| 現存施設・資源 | 古墳(墳丘、石室、副葬品) | | | | 弥勒寺 | 春稻神社(奥の院) 歌碑 | | 慈雲寺 | 堀切 | | 矢穴や刻紋のある切石・巨石 白山神社 智勝院 蓑虫山人「舟来山図絵」 | | | 北野神社 八幡神社 富有柿畑・畑跡(段々畑の石積み) | | |



| | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 |
|-----|----------------------------|-----------|-----------------------------------|---------------------------|
| 墳形 | 前方後円(方)墳 円墳、方墳 | 帆立貝形墳墓 | 円墳 | 円墳 |
| 石室 | 竪穴式石室 木棺直葬・竪穴墓坑 | | 横穴式石室、赤彩、竪穴系横口式石室 両袖式・片袖式・無袖式等 | 横穴式石室(小型化、在地化) 両袖式・無袖式 |
| 出土品 | 鉄鏃、鉄槍、方形板革綴短甲などの 武具・武器類 | 淡輪技法の円筒埴輪 | 雁木玉、トンボ玉、鉄馬具、 須恵器など豊富で豪華 | 須恵器など |



船来山およびその周辺の土地利用や機能の変遷

古くより大河川（旧糸貫川）とその扇状地の地形的条件の中で、様々な土地利用や機能に変遷してきた。

特に古代は、水陸交通の要所という立地で、中央の影響を強く受けた政治・経済の中心地だった可能性が高い。

大河川の氾濫原がつくり出したこの地域の自然は、中世を中心に歌枕として都の文化にくみこまれた。

河道の変化や用水路の発達にともない、現在まで続く農産業の生産地として、また旧河道を活かした商工業の中心地として発展し、街が形成されてきた。

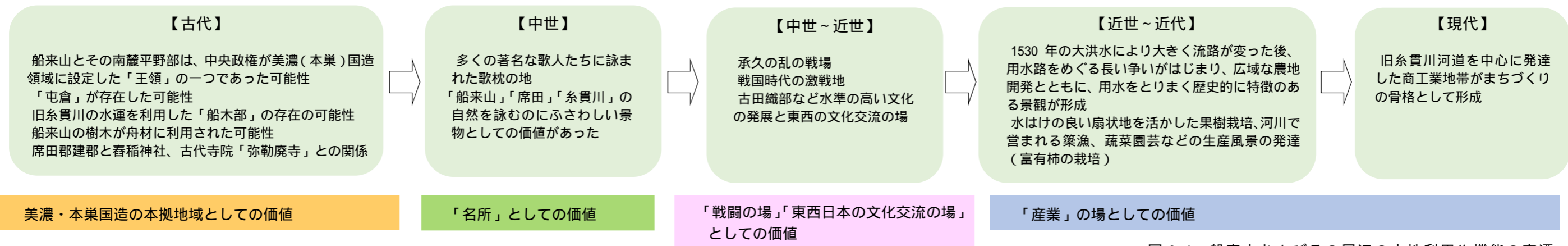
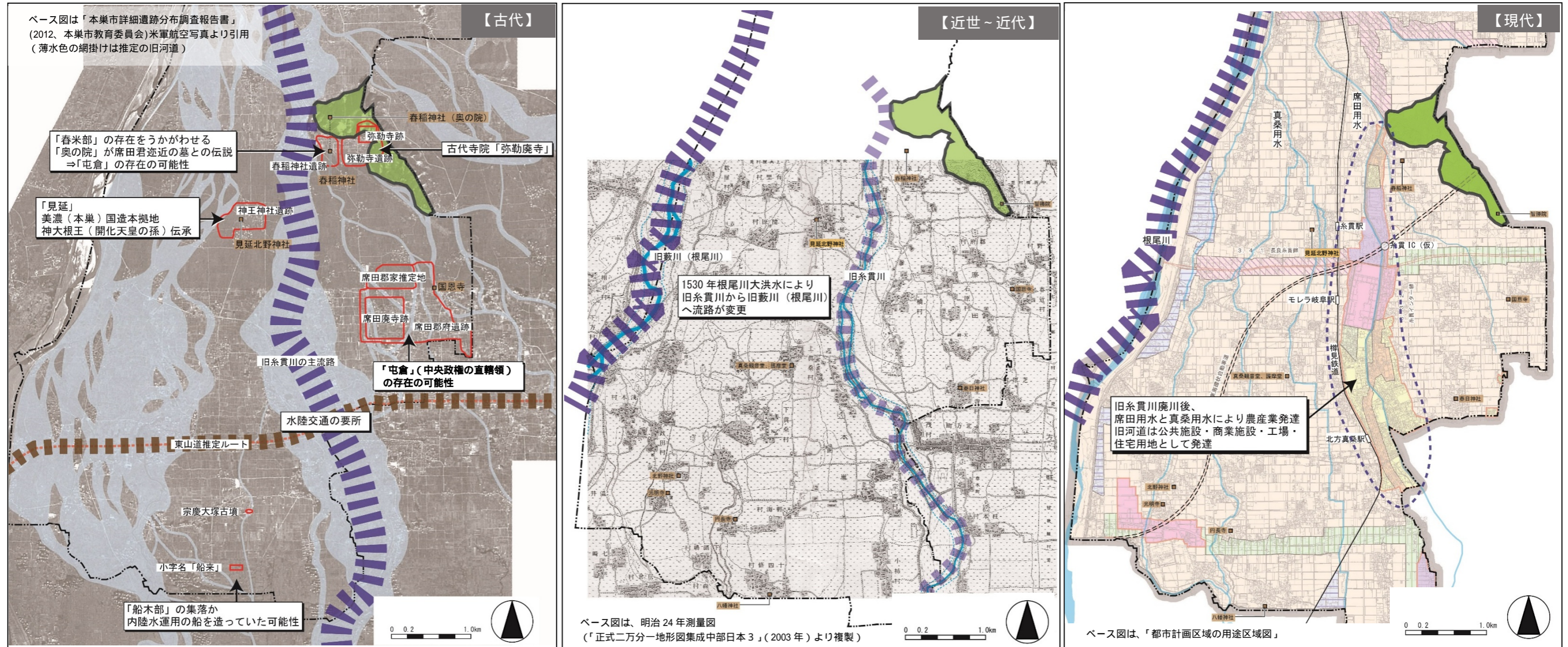


図 6-1 船来山およびその周辺の土地利用や機能の変遷

2 計画コンセプト

船来山古墳群がつけられた船来山とその周辺地域は、古墳群形成後も、各時代でさまざまな土地利用がなされ、その折々で重要な機能もたらされてきた地域である。

時代変遷の背景には、船来山の独立丘陵と旧糸貫川の大河川、その扇状地が作り出す自然的要因が大きく関わり、古代から現代まで歴史的にも良好な景観を形成してきたことがこの地域の特性といえる。

船来山古墳群の保存・活用にあたっては、古墳群としての本質的な価値のみならず、歴史・文化を伝える資源、自然環境としての資源など魅力のつまった船来山、そして周辺のさまざまな時代を伝える資源とともに現代の地域特性である富有柿などの風情ある農景観を活かすものとする。

さらに、先人の生活や自然との共生の知恵や技を体感する楽しみを提供し、新たな交流を生み出す場となることを目指す。

市民から募集し、選定されたキャッチコピーを元にコンセプトを設定する。

先人の想い、知恵、技を体感できる
「古代と未来のかけ橋 船来山古墳群」

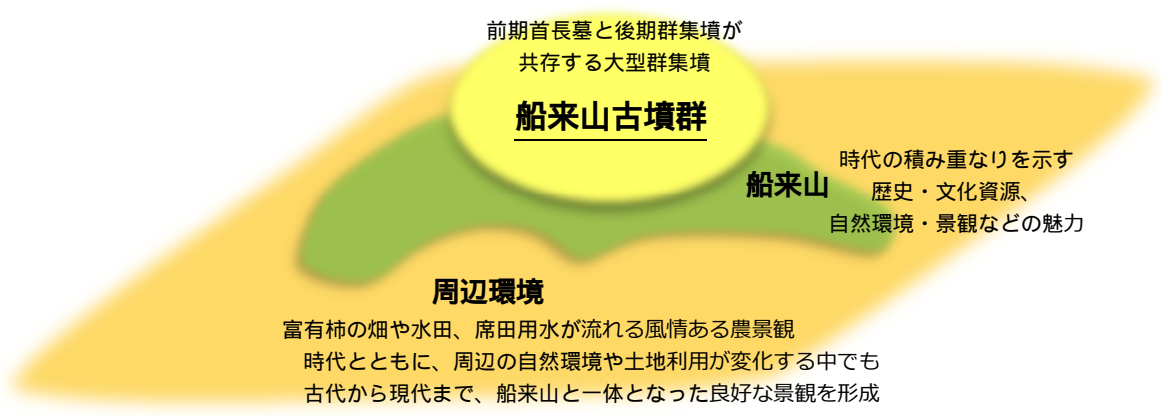


図 6-2 コンセプト概念図

3 基本方針

コンセプトを実現するための基本方針として、以下の5つを設定する。

< 保存管理 >

船来山古墳群の価値（古墳群、地形等の環境）の将来にわたる保存管理

船来山古墳群の本質的価値は、発掘調査や研究・分析により徐々に解明されているところであり、その保存の必要性も高い。今後も継続的な調査・研究により、さらに明確な価値付けを行い、確実な保存管理を図る。

その他の視点に基づく価値（樹林・景観等）との一体的な保存管理

船来山古墳群が形成された歴史的背景やその後の変遷をみると、船来山やその周辺環境とのかかわりが深く、周辺の様々な土地利用や機能もたらされる中で、地域の歴史が形成されてきたことがわかる。また船来山は、景観的にも自然環境としても地域の重要な役割を担っている。そこで、船来山やその周辺環境との一体的な保全・保存を図る。

< 整備・活用 >

古墳の価値（石室の形態等）や時代の姿を体感できる環境整備

価値ある資源としての分かりやすさ、訪れる環境としての魅力や快適性の創出・整備、時代を体感できる仕掛けによって、国内外の多様なニーズに対応できる環境整備を行う。

周辺地域と連携した整備・活用

船来山古墳群の価値や魅力を広く国民に発信し理解を促すため、周辺古墳群やその他の遺跡等歴史・文化資源と連携した活用を図る。

< 運営 >

地域の参画に基づく持続可能な維持管理・運営

調査・研究、保存・活用、運営を持続的に推進するため、関連する行政組織、研究者、ボランティアグループ、学校・地域住民等、多くの人が協働で関わる体制づくりを行う。